2025 年度 横浜fカレッジ 自己評価表

1. 学校の教育目標

(1)感性の向上
(2)高度な技術力の習得
(3)豊かな人間性の涵養
(4)プレゼンテーション能力の育成

2. 2025 年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

項目	実施状況	評価
IT ツール活用による教育の DX 化	・昨年度全学科で導入した Swipe Video（自由視点映像ソリューション）については、活用状況を鑑み、今年度は美容師科、ヘアメイク・アイデザイン科でのみ採用。美容師国家試験実技試課題のコンテンツを作成し授業内および予習復習に活用。 ・美容師国家試験筆記対策として、AI を活用した問題分析やモバイル端末からいつでも過去問題等の学習ができる環境整備を試行。次年度の合格率向上に向け、引き続きコンテンツ制作を進める。	○
魅力的なカリキュラムの構築	・産学連携やインターンシップなど、学外との連携で実践的な学びを体感できる場を提供。新規連携先の開拓も積極的に取り組み、全ての学科で新規連携を実施。 ・業界のトレンドを学ぶ授業連携を実施。美容系学科では国内や韓国に留まらず、アメリカ・イギリスからもアーティストを招聘し、デモンストレーションを通じて世界水準の技術並びに最新トレンドに触れる機会を創出。国際的な業界動向に関する理解を深める機会とした。	○
教務部の組織的・機動的運営の構築、推進	・効率的な学科運営の実現に向け、レポートラインの整備および時間効率を考慮したタスク管理手法について部内で検討を行い、実行フェーズに移行した。一方でリーダー層のマネジメント能力に差が見られ、運用面において一部課題が生じている。 ・リーダー育成および運用ルールのブラッシュアップを図り、組織全体としての運用精度向上に取り組む。 ・定形業務については、属人化の解消を目的として、誰でも実行可能なマニュアルの整備を推進する。各人のスケジュール管理を徹底する仕組みの構築に取り組む。	△

3.評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 理念・目的・育成人材像は定められているか （専門分野の特性が明確になっているか）	(4) 3 2 1
・ 学校における職業教育の特色は明確か	(4) 3 2 1
・ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 (3) 2 1

・ 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	(4) 3 2 1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	(4) 3 2 1

① 課題

ファッション・美容・ブライダルの各業界において、時代の潮流を読み、自ら主体的に最新技術を学び、各分野のリーダーとして向上心を持った発想力豊かな人材の育成が課題。

② 今後の改善方策

学外のイベントや展示会見学、産学連携を通じて、業界への理解を深め関心を高める取り組みを推進する。また、教職員が自ら模範となり、主体的に学び続ける姿勢を学生に示すとともに、積極的に業界との連携を推進し、その成果を教育活動へ還元する。

③ 特記事項

(2). 学校運営

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか	(4) 3 2 1
・ 事業計画に沿った運営方針が策定されているか	(4) 3 2 1
・ 運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	(4) 3 2 1
・ 人事、給与に関する制度は整備されているか	(4) 3 2 1
・ 教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	(4) 3 2 1
・ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	(4) 3 2 1
・ 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	(4) 3 2 1
・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	(4) 3 2 1

① 課題

Swipe Video を全学科で導入できるよう整備したが、活用頻度を鑑み、美容師国家試験取得学科でのみ継続となった。

② 今後の改善方策

各学科で必要とされるツールの調査を進める。また、授業準備や校務について、AI を活用した業務効率化を図るための体制整備を進める。

③ 特記事項

（3）. 教育活動

a. ファッションライフデザイン学科

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	(4) 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4 (3) 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 (3) 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	(4) 3 2 1
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 (3) 2 1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	(4) 3 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	(4) 3 2 1
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 (3) 2 1
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	(4) 3 2 1
・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 (3) 2 1
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 (3) 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4 (3) 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 (3) 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 (3) 2 1

① 課題

3D モデリングをはじめとした各種デジタルツールを活用し、学生が主体的かつ実践的に学べる教育環境を十分に整備・強化していくこと

② 今後の改善方策

新たな企業連携やデジタルツールの活用を進め、3D モデリングやメタバースを取り入れた商品企画・制作・発信を通じて、学生がより主体的かつ実践的に学べる産学連携プロジェクトを充実させる。

③ 特記事項

GREEN×EXPO 2027 に向けた VIP ユニフォームデザイン提案プロジェクトに参加し、企業・関係団体と連携しながら、サステナビリティ、機能性、多様性を踏まえたデザイン開発に取り組んだ。国際イベントを想定した実践的な提案を通じ、企画力、提案力及び表現力の向上を図るとともに、ファッションを通じた社会課題への理解を深める機会となった。

b. ファッションビジネス科

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	(4) 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	(4) 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	(4) 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4 (3) 2 1
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	(4) 3 2 1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	(4) 3 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	(4) 3 2 1
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	(4) 3 2 1
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	(4) 3 2 1
・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	(4) 3 2 1
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 (3) 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	(4) 3 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 (3) 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 (3) 2 1

① 課題

多様化する購買スタイルに柔軟に対応し、販売現場での経験を活かしてアパレル業界内でキャリアアップできる、実践力と応用力を備えた人材の育成が課題。

② 今後の改善方策

1年次からコース選択授業を実施し、ファッションアドバイザーやスタイリストなど目指す職種に応じた専門的なカリキュラムを展開することで、実践力と応用力を備えた人材の育成を図る。

③ 特記事項

c. ブライダル科

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	(4) 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	(4) 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	(4) 3 2 1

・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4 (3) 2 1
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	(4) 3 2 1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4 (3) 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	(4) 3 2 1
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	(4) 3 2 1
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	(4) 3 2 1
・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	(4) 3 2 1
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	(4) 3 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	(4) 3 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 3 (2) 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 3 (2) 1

① 課題

多様な価値観を持つ学生に対応したカリキュラムの検討と、学生指導法等を学ぶ研修機会の充実が課題

② 今後の改善方策

個人面談やアンケートの実施回数を増やし、学生のニーズや時代に即したカリキュラムとなっているかを継続的に検証する。あわせて、職員の研修参加計画を策定し、学生指導力及び教育力の向上を図る

③ 特記事項

d. ビューティーコーディネート科

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	(4) 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	(4) 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	(4) 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4 (3) 2 1
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 (3) 2 1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4 (3) 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	(4) 3 2 1
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 (3) 2 1
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	(4) 3 2 1

・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	(4) 3 2 1
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 3 (2) 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	(4) 3 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 (3) 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 (3) 2 1

① 課題

学生の多様な状況に応じて、主体的に学ぶ姿勢や自己管理能力、美容業界で求められるコミュニケーション能力等を高めるための継続的な指導と支援が課題

② 今後の改善方策

学生の成長を実感できる教育環境を整備し、学習意欲の向上につながる授業改善を推進することで、美容業界で活躍できる人材の育成を図る

③ 特記事項

e. 美容師科

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	(4) 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	(4) 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	(4) 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	(4) 3 2 1
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	(4) 3 2 1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4 (3) 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	(4) 3 2 1
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	(4) 3 2 1
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	(4) 3 2 1
・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 (3) 2 1
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 3 (2) 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4 (3) 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 (3) 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 (3) 2 1

① 課題

インターンシップ参加者の増加に向けた職業意識・実践力の育成と、教員研修による指導力向上が課題
十分な指導体制を構築するため、学生数に見合う教員数の確保

② 今後の改善方策

学生数に見合う教員数を確保するとともに、インターンシップ参加に必要な知識・技術・マナーの指導を強化し、参加者の増加を図る。また、教員勉強会や研修を継続的に実施し、専門性と指導力の向上を図る

③ 特記事項

f. ヘアメイク・アイデザイン科

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	(4) 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	(4) 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	(4) 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	(4) 3 2 1
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	(4) 3 2 1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	(4) 3 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	(4) 3 2 1
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	(4) 3 2 1
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	(4) 3 2 1
・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 (3) 2 1
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 3 (2) 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4 3 (2) 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 (3) 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 (3) 2 1

① 課題

就職先の確保に向け、内定先企業との連携を継続的に強化し、企業が求める技術や接客力の情報を就職指導や授業内容に反映させることが課題

② 今後の改善方策

ヘアメイク分野及びアイリスト分野の求人開拓を継続するとともに、業界ニーズに対応した教育体制及びカリキュラムの充実を図る。あわせて、アイリスト分野に対応可能な教員を補充し、指導体制を強化する

③ 特記事項

2 月～3 月にブライダル系企業の説明会を実施したことで、学生の就職意欲が高まり、早期の活動促進につながった

（4）. 教育環境

a. ファッションライフデザイン学科

評 価 項	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 (3) 2 1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 (3) 2 1

① 課題

変化するファッション業界に対応できる実践力を育成するため、デジタル技術とアナログ技術を融合した教育環境の充実を図る必要がある

② 今後の改善方策

地域企業や商業施設との連携を深め、3D モデリングやデジタルツールを活用した産学連携プロジェクトやインターンシップを拡充し、実践的な教育環境を強化する

③ 特記事項

b. ファッションビジネス科

評 価 項	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 (3) 2 1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	(4) 3 2 1

① 課題

2026 年度から 1 年次のコース別クラス編成を始め、2027 年度には 4 クラス編成となる予定である。そのため、教室の確保とカリキュラムの工夫が課題

② 今後の改善方策

引き続き、時間割の工夫および他学科との調整を行い、教室・設備の効率的な活用を進めることで、学内リソースの最適化を継続する。

③ 特記事項

c. ブライダル科

評 価 項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 (3) 2 1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 (3) 2 1

① 課題

学外や婚礼施設での実習が多い学科であることから、実施施設及び実施エリアの拡大、新規開拓が課題

② 今後の改善方策

ウエディングの最新トレンドを学ぶ機会を確保するため、都内や人気エリアでの実習も視野に入れ、カリキュラムの構築を進める

③ 特記事項

d. ビューティーコーディネート科

評 価 項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 (3) 2 1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 (3) 2 1

① 課題

美容業界の変化やニーズに対応するため、インターンシップや産学連携授業などを通じた実践的な学習機会の充実が課題

② 今後の改善方策

産学連携授業やインターンシップ受入企業との連携を強化し、実践的な学習機会を充実させる
また、業界動向を踏まえた教育内容や実習環境を整え、美容業界で活躍できる人材を育成する

③ 特記事項

e. 美容師科

評 価 項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 (3) 2 1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 (3) 2 1

① 課題

（ICT 機器を活用した授業環境は整っているが、一部の教室ではモニターやプロジェクターが見えにくく、より効果的な授業運営に向けた改善が課題）

② 今後の改善方策

（教室ごとの視認性を確認し、機器の配置見直しや大型モニターの更新・増設を行うことで、学習しやすい授業環境を整備する）

③ 特記事項

（　　）

f. ヘアメイク・アイデザイン科

評 価 項	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 (3) 2 1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 (3) 2 1

① 課題

（設備の整った教室と希望進路に応じた実習先の確保、実習に必要な技術・接客マナーの指導強化が課題）

② 今後の改善方策

（授業内容や時間割を調整し、使用教室の効率化を図ることで、実習授業を円滑に実施する。あわせて、外部講師を招いた実践的な授業や卒業生との交流を継続し、早期からの職業理解の深化を図る）

③ 特記事項

（ヘアメイクに加え、アイサロンでの現場実習も実施することで、学生の希望進路に応じた実践的な学びの機会を確保することができた）

（5）. 学修成果

a. ファッションライフデザイン学科

評 価 項	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・就職率の向上が図られているか	(4) 3 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	4 (3) 2 1
・退学率の低減が図られているか	4 (3) 2 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 (3) 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4 (3) 2 1

① 課題

安定した就職実績を維持しつつ、縫製・パターン・3D モデリング等の技術職並びにデジタル分野・企画職への就職を一層強化し、学生の専門性を生かしたキャリア形成につなげること。

② 今後の改善方策

ファッション業界のデジタル化や専門職ニーズの拡大に対応するため、企業連携による実践教育を強化し、3D モデリングや企画提案等の実務力を育成する。あわせて、資格取得支援や個別進路指導を充実させ、技術職、デジタル分野及び企画職への就職支援を推進する。

③ 特記事項

b. ファッションビジネス科

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・就職率の向上が図られているか	4 (3) 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	4 (3) 2 1
・退学率の低減が図られているか	4 3 (2) 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	(4) 3 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	(4) 3 2 1

① 課題

退学者数が目標値を上回っており、退学者の低減に向けた継続的な支援体制の強化が課題

② 今後の改善方策

後期以降の欠席超過による退学を抑制するため、早期から遅刻・欠席状況を把握するとともに、学習意欲の維持・向上に向けた取組を進める

③ 特記事項

昨年度の課題であった就職率については、早期面談およびヒアリングを徹底するとともに、個別対応を丁寧に実施した結果、就職率の向上が見られた。

c. ブライダル科

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・就職率の向上が図られているか	(4) 3 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	4 (3) 2 1
・退学率の低減が図られているか	(4) 3 2 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	(4) 3 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	(4) 3 2 1

① 課題

進路変更や学習意欲の低下に起因する退学者が一定数存在することから、学生の状況に応じたカリキュラムの見直し及び改善が課題

② 今後の改善方策

カリキュラム内容の見直しを図り、早期段階から業界への関心や意欲を高める仕組みを整備する
あわせて、学びの目的を明確化し、継続的に学習成果を実感できるカリキュラムへ改善する

③ 特記事項

2025 年度サービス接遇実務検定　団体優秀賞　受賞
サービス接遇実務検定準 1 級(ﾛｰﾌﾟﾚ)　合格率 98%（全国合格率 85.9%）
ブライダルコーディネート技能検定（国家検定）2 級　1 名合格

d. ビューティーコーディネート科

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・就職率の向上が図られているか	(4) 3 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	(4) 3 2 1
・退学率の低減が図られているか	4 3 (2) 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	(4) 3 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4 (3) 2 1

① 課題

資格取得率や就職率の維持向上に加え、学生の主体的な学びを支援し、卒業後も美容業界で活躍できる人材を育成することが課題。また、退学率の低減に向け、学習意欲や学校生活への満足度を高める継続的な取組も必要。

② 今後の改善方策

学生の状況に応じた面談や学習支援を継続し、資格取得や早期内定に向けた指導を強化。あわせて、卒業生交流や企業連携によるキャリア教育を充実させ、学習意欲の向上と退学率の低減を図る。

③ 特記事項

e. 美容師科

評 価 項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・就職率の向上が図られているか	4 (3) 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	4 (3) 2 1

・退学率の低減が図られているか	4 (3) 2 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 (3) 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4 (3) 2 1

① 課題

国家試験において不合格者が見られたため、合格率の向上に向けた継続的な学習支援及び指導体制の強化が必要

② 今後の改善方策

学生が充実した学校生活を送りながら学習に取り組める環境を整備するとともに、国家試験対策を計画的かつ継続的に実施し、合格率の向上を図る

③ 特記事項

f. ヘアメイク・アイデザイン科

評 価 項	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・就職率の向上が図られているか	(4) 3 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	4 (3) 2 1
・退学率の低減が図られているか	(4) 3 2 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 (3) 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4 (3) 2 1

① 課題

美容師国家試験合格率 95%以上、業界内定率 100%を目標としているが、2025 年度は筆記試験で 3 名の不合格者を出した

② 今後の改善方策

国家試験対策を早期から計画的に実施し、学習習慣の定着及び個別指導の充実を図る。また、企業説明会、産学連携授業及び実習先との連携を強化し、業界内定率 100%の維持並びに退学防止につなげる

③ 特記事項

業界内定率 100%を達成し、各種検定合格率の向上につなげた
学生支援や継続的な指導を行うことで、退学率を 1 割未満に抑えた

（6）. 学生支援

評 価 項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	(4) 3 2 1
・ 学生相談に関する体制は整備されているか	(4) 3 2 1
・ 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	(4) 3 2 1
・ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	(4) 3 2 1
・ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	(4) 3 2 1
・ 学生の生活環境への支援は行われているか	(4) 3 2 1
・ 保護者と適切に連携しているか	(4) 3 2 1
・ 卒業生への支援体制はあるか	4 (3) 2 1
・ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 (3) 2 1
・ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	(4) 3 2 1
・ 防災に対する体制は整備されているか	(4) 3 2 1

① 課題

昨年末に学園全体で LINE を活用した連絡ツールの整備が行われたが、卒業生への支援体制が活発に行われず、学校行事等の連絡のみの活用となった。

② 今後の改善方策

卒業生の動向調査や授業支援依頼などに活用を目的とした運用スキームの構築を進める。

③ 特記事項

学生相談については週1日スクールカウンセラーに相談できる体制を整えており、経済的側面への支援については、担任ならびに奨学金等の経済支援に詳しいスタッフに常時相談できる体制を整えている。

（7）. 学生の受入れ募集

評 価 項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 学生募集活動は、適正に行われているか	(4) 3 2 1
・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	(4) 3 2 1
・ 学納金は妥当なものとなっているか	(4) 3 2 1

① 課題

ファッション・ビューティー・ブライダルと3分野が混在しているため、各分野の特徴を明確に訴求した学生募集を行っていく。

② 今後の改善方策

2026 年に新設のファッションクリエイター科は、修業年限が4年制である点を踏まえ、他学科と差別化した募集戦略を構築する。そのため、Webページや情報発信については学科独自のブランドラインとして展開する。

③ 特記事項

（8）. 財務

評 価 項 目	適切:4、ほぼ適切:3 準備中・整備中:2、未着手・未整備:1
・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	(4) 3 2 1
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	(4) 3 2 1
・ 財務について会計監査が適正に行われているか	(4) 3 2 1
・ 財務情報公開の体制整備はできているか	(4) 3 2 1

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

③ 特記事項

財務状況は、安定しており、継続的な学校運営には問題がない状況である。

（9）. 法令等の遵守

評 価 項	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	(4) 3 2 1
・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	(4) 3 2 1
・ 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4 (3) 2 1
・ 自己評価結果を公開しているか	(4) 3 2 1

① 課題

2013 年度より自己評価を実施し、学校関係者評価委員会等で意見を聴収。改善に努めているが、校舎・設備・環境に関わる課題や、学生の経済支援については制約もあり、年度内や本校のみの施策では解決しにくいものがある。

② 今後の改善方策

2026 年度新設のファッションクリエイター科の実習室兼産学連携拠点として LABO の開設準備を進める。

③ 特記事項

自己評価、学校関係者評価委員会の議事録は、ホームページ上で公開している。

（10）. 社会貢献・地域貢献

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	(4) 3 2 1
・生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 (3) 2 1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	(4) 3 2 1

① 課題

昨年に引き続き、地元プロリーグや地域イベントの活動には参加したが、計画的かつ企画から実行までを継続的して行うことが課題である。

② 今後の改善方策

経年で継続している活動については、年間スケジュールを立て企業と連携する。また、多くの学生が参加できるよう予め年間のイベントスケジュールを公表し、社会貢献の取り組みに参加してもらうことで地域貢献活動に対するマインドを醸成する仕組みを作る。

③ 特記事項

以　上